

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

名称	小倉リハビリテーション学院	評価実施日	2024年 6月 30日
----	---------------	-------	--------------

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数				非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	常勤教員	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数			
理学療法学科 夜間コース	6 人	6 人	6 人	6 人	32 人	13 人	
計	6 人	6 人	6 人	6 人	32 人	-	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	全ての養成施設指導要領の教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
☐	9割以上の養成施設指導要領の教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
☐	8割以上の養成施設指導要領の教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
☐	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
☒	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
☐	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導要領との連動状況

学部・学科等の名称	分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
					氏名	職名（専任・兼任）
理学療法学科 夜間コース	基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	都能 美智代	兼任
			統計学	15	増見 伸	兼任
			情報処理	15	本山 晴子	兼任
			物理学	15	松浦 雄太	兼任
			基礎教養	15	篠崎 康次	兼任
			対人関係演習Ⅰ	15	波多野 浩子	専任
			対人関係演習Ⅱ	15	波多野 浩子	専任
	専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	秋山 嘉和	兼任
			解剖学Ⅱ	15	岡部 貴文	兼任
			生理学Ⅰ	15	笛田 由紀子	兼任
			生理学Ⅱ	15	笛田 由紀子	兼任
			運動学Ⅰ	30	奥之山 峻 他	兼任
			運動学Ⅱ	15	秋山 嘉和	兼任
			運動学演習Ⅰ	15	林 輝真	兼任
			運動学演習Ⅱ	15	宮崎 祐二	専任
			人間発達学	15	川上 留理子	専任
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	リハビリテーション基礎医学Ⅰ	15	河瀬 直也	兼任
			リハビリテーション基礎医学Ⅱ	15	茂呂田 孝一	兼任
			医学概論	15	河瀬 直也 他	兼任
			病理学概論	15	張 皿	兼任
			整形外科学	15	坪田 和英 他	兼任
			内科学	15	伊織 信一 他	兼任
			神経内科学	15	川上 留理子 他	専任
			臨床心理学	15	藤 亜紀子	兼任
			精神医学	15	二階堂 晴江	兼任
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーションと理学療法Ⅰ	15	藤本 一美	専任
			リハビリテーションと理学療法Ⅱ	15	坪田 和英	兼任
	専門分野	基礎理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ	15	松浦 雄太	兼任
			基礎理学療法学Ⅱ	15	坪田 和英	兼任
			生活機能演習	15	坪田 和英	兼任
			臨床運動学演習Ⅰ	15	伊織 信一	専任
			臨床運動学演習Ⅱ	15	宮崎 祐二	専任
		理学療法管理学	理学療法管理学	15	川上 留理子 他	専任
		理学療法評価学	基礎評価学演習Ⅰ	30	田熊 希	兼任
			基礎評価学演習Ⅱ	30	田熊 希	兼任
			基礎評価学演習Ⅲ	30	伊織 信一	専任
			臨床評価学演習Ⅰ	15	藤本 一美	専任
			臨床評価学演習Ⅱ	15	川崎 亮佑	兼任
			運動療法学演習	30	伊織 信一 他	専任
			物理療法学	15	岡部 貴文	兼任
			日常生活活動学演習Ⅰ	15	原田 薫	兼任
			日常生活活動学演習Ⅱ	15	伊織 信一	専任
			義肢学	15	長嶺 彰吾	兼任
			装具学	15	長嶺 彰吾	兼任
			中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ	30	奥之山 峻	兼任
			中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ	30	奥之山 峻	兼任

	理学療法治療学	運動器疾患の理学療法学Ⅰ	30	田熊 希	兼任
		運動器疾患の理学療法学Ⅱ	30	鈴木 彩 他	兼任
		内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ	30	伊織 信一	専任
		内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ	30	岡部 貴文	兼任
		小児疾患の理学療法学	15	原田 薫	兼任
		理学療法学技術演習Ⅰ	30	宮崎 祐二	専任
		理学療法学技術演習Ⅱ	30	宮崎 祐二	専任
		理学療法学総合学習Ⅰ	30	川上 留理子 他	専任
		理学療法学総合学習Ⅱ	30	川上 留理子 他	専任
		理学療法学総合学習Ⅲ	30	川上 留理子 他	専任
	地域理学療法学	生活環境学	15	波多野 浩子	専任
		地域理学療法学演習	15	鈴木 彩	兼任

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導要領に基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導要領に基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導要領に基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導要領に従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導要領に従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導要領に従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導要領に従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

学部・学科等の名称	臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法学科 夜間コース	病院における理学療法場面の見学	1年後期	対人関係演習Ⅰ	1年前期
			対人関係演習Ⅱ	1年後期
			リハビリテーションと理学療法Ⅰ	1年前期
			リハビリテーションと理学療法Ⅱ	1年前期
	通所リハビリテーションの見学	3年後期	生活機能演習	3年後期
			地域理学療法演習	3年後期
	理学療法評価の実践	4年前期	基礎評価学演習Ⅰ	1年後期
			基礎評価学演習Ⅱ	2年前期
			基礎評価学演習Ⅲ	2年後期
	理学療法計画立案の実践	4年前期	理学療法学技術演習Ⅰ	3年前期
			理学療法学技術演習Ⅱ	3年後期

【自己評価3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導要領で定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導要領で定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導要領で定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・自己評価委員会
委員名（委員長）	委員長：磯邊 恵理子
組織の開催頻度	6 か月に一度
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の実施及び分析
	・ 教員間授業評価の実施と分析
	・ 学院管理目標の作成および評価
	・ 卒業時満足度調査の実施と分析
	・ 外部評価委員による教育評価の実施
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：http://www.kokura-reha.jp）

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	カリキュラム委員会
	委員構成等	河瀬 直也 他
	改善の仕組みの実際	・ 前期及び後期講義終了後のシラバス見直し実施
		・ 定期試験結果を踏まえての講義内容の見直し
		・ 年2回（8月と3月）全教員を対象にした教育関係の研修会実施

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

外部の専門家による第三者評価を受け、その指摘や提言を参考に教育プログラムや臨床実習体制を見直し、教育活動に反映している。また教員研修を実施して教職員の専門性や教育力を向上する機会としている。

